

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや
ちくさ

題字 黒野 貞夫

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年 8月24日
例会日 火曜日 12:30
例会場 愛知厚生年金会館
事務局 ☎763-5110
会長 黒須一夫
幹事 大口弘和
会報委員長 秋山茂則

ロータリーを楽しもう!
ENJOY ROTARY!

No.47

1989~90年度 RI会長 ヒュー M.アーチャー

第389例会 平成2年6月19日(火) 晴

◇ “それでこそロータリー”

◇出席報告

会員 65名 出席 47名

出席率 72.31%

前回 6月12日 (修正出席率) 100%

◇ビジター紹介 5名

◇お誕生日祝福

三輪君(6/22)

◇ニコボックス

東海RC 井田 郁君 チャーターナイト以来の訪問です。訪問を記念して!!

東海RC 阿知波 達仁君 初めて千種RCに出席させていただきます。黒須会長にはいつも大変お世話になっております。

太田 茂君 本年度最終ゴルフコンペが6月14日スプリングフィールドG. C.にて行われ、ホールインワンを達成致しました。

ゴルフ冥利につきるとはこのことで、幸運が仕事の上にも及ぶ様願いつつ……

お礼の言葉に致します。

本当にありがとうございます。

山本 真輔君 本日卓話をさせていただきます。

西尾 正巳君 F. S. M. ご招待いただきありがとうございます。

吾郷 正夫君 麻雀大会に優勝させて戴きました。ありがとう御座いました。

加藤 大豊君、永井 正義君 太田 茂さん、先日のゴルフクラブコンペで見事ホールインワンお目出度うございました。長年ゴルフをやっていますが、始めて目の前で見ました。

佐久間 良治君 ファイアサイドミーティングでは、ご迷惑をお掛けしました。

上野 保君 太田 茂様、先日のゴルフ代役幹事ご苦勞様でした。お世話になりました。

ホールインワン達成おめでとう。

竹内 真三君 プログラム委員長の仕事、本日の山本君のスピーチで終了いたします。私

なりにEnjoy Rotary をさせて頂き感謝しております。スピーカーの諸君に心より御礼申し上げます。

成田 良治君 山本 真輔先生には、来年度ゴルフ会、麻雀会の会長杯を作成提供して戴く事になりました。有難度うございます。

秋山 茂則君 「今週の言葉」ご協力有難うございました。本日で全員の取材を終りました。

加藤 正義君 農協委員の為忙しく出席がわるくて申し訳ありません。出来る限り出席致します。

松居 敬二君 本日早退させていただきます。

三輪 康君 誕生日祝い。

◇大口幹事報告

1. 本日例会終了後、次年度理事役員会を開催いたしますので、次年度理事役員の方は2F扇の間にお集まり下さい。
2. 次回例会終了後、理事役員会を開催いたしますので、理事役員の方はお残り下さい。
3. ロータリーの友6月号とロータリー手帳がきておりますので、お帰りにお持ち下さい。

◇黒須会長挨拶

“老化について考える”

老年期は現在65歳以上が一般的ですが、将来高齢化が進めば70歳以上となるかもしれません。

老年期は肉体的には衰退期ではありますが、衰退の進行は極めてゆるやかであり、個人に与える影響はわづかであるといわれます。精神面では衰退期ではありません。経験の蓄積によって能力を高め、また人間としての自己実現を達成する可能性をもった時期でもあります。

そこでどんなマイナス面があり、どんなプ

ラス面があるか、また、実際的な老化現象は何かを述べてみます。

1. 老化のマイナス面

1) 心身の機能の低下

加齢にともなって体力や知力の一部にある程度の衰えが起こり、予備力は低下します。この老化現象は多くの方が現像しているものよりずっと程度の軽いものであり、心配には及ばないとのことです。

老化による機能低下を拡大する要因に、廃用性の衰え（使えば使える機能を使わないでいるために起こる能力低下）があります。これが老化現象と混同されています。これらの対策はそれぞれの能力に応じてできるだけまんべんなく頭と身体を使い、活動を持続させることであります。

2) 身体の不健康

老年期は病気にかかりやすく、しかも慢性疾患が多くみられます。これが心身の機能を低下させ、情緒不安定をもたらします。精神的な健康を維持するためには身体的な健康が支えとなります。

自己の健康管理に意を向けることが望ましく、必要な治療は十分に行い、排除できない障害に対してはそれと共存する態度でのぞむべきでもありましょう。

3) 環境の変化

老年期には個人の地位、役割、そして人間関係に大きな変化が起こります。とくに家族や親しい人との死別、仕事からの引退は挫折的な精神的打撃をこうむることになり、それに対する心の備えが必要でありましょう。

2. 老化のプラス面

年をとって、失われるものがある反面、また利点もあります。

1) 経験の蓄積と活動

人間の頭脳の機能は退化せず、むしろ学習によって活性化するといわれております。いままでの知識や経験を活用して、知的活動をさらに深め、拡大させる可能性のある時期といえましょう。

これには新しい知識や経験を摂取して、それを吟味し、努力、工夫することにより知的充実が可能になると思われます。

周囲をみまわすと、先輩に多くのすばらしい方がおられます。

2) 人間的な円熟

老年期は長い一生を通じて、それぞれの特性をもった個人として円熟する可能性をもった時期であり、こればかりは若年者には達成できません。

人生の中で、いろいろ経験したことを本当に有意義に結実させることができるのは成人期でなく、むしろ老年期ではないでしょうか。

3. 老化現象

老化現象を具体的にのべますと次のようになります。

1) 体の老化

- (1) 外見上の老化（白髪、老眼、皮膚のしわ、しみ）
- (2) 視力の低下、暗調応の延長
- (3) 外界からの刺激に対する反応が遅くなる。
- (4) その刺激でおきた体の反応がもとの状態にもどるのに時間がかかる。
- (5) 傷の治りやつめの伸びが遅くなる。
傷の治りは10年多いと2ヵ月遅れ、つめの伸びは70歳で20歳のときの3/4のスピードです。
- (6) この他老年期の病気があります。

2) 心の老化

以下のことがでてきたら御注意下さい。

- (1) 最近のことが記憶に残らなくなる。聞いたばかりのことや知人の名前が重い出せない。
- (2) 急いでやらなくてはならないことがあるとなんとなくいらいらする。
- (3) 関心がすべて自己中心的になり、他人の感情を気にしなくなる。自分自身の感情にとられやすくなる。
- (4) 過ぎ去ったことをよくしゃべる
新しいものの関心がなくなって、自己中心の生活となり、考えや行動が繰り返しになりがちで、過去の自分の苦勞話をしたがる。
- (5) ぐちをこぼす、また怒りっぽくなったり、ニュースやテレビのドラマを見て涙もろくなる。
これは感情のコントロールがうまくいかないためです。
- (6) 目の前で行われていることにあまり気をとめなくなる。
他人にわずらわされず1人でいたいと思ひこむようになる。
- (7) 知らない人と付き合うのがおっくうになる。
- (8) 騒がしいことに妙に神経質になり、おこりっぽくなる。
- (9) 新しいことを身につけられなくなる。
新しい計画に頭を切り替えることが出来ず知識欲や好奇心がなくなってしまう。
以上の項目に少しでも合致する点がありますれば、無理してもそのようにならないように注意して、老化をできるだけおぼす努力をすべきでありましょう。

老年期を後ろむきではなく、最も充実した結実期、収穫期、ゴールデン期と考え、発想の転換をしようではありませんか。

人生80年の今日、もし孔子が生きていたら30年遅らして、60にして立つ、70にして惑わず、80にして天命を知るとおっしゃったかもしれせん。

◇講演

“第6回 美シリーズ 彫刻”

会員 山本 真輔 君



最近、街角に彫刻が設置されたり、ビルのロビーに裸婦像がおかれたりしているのを時々みかけるようになった。が、まだまだ人々の生活の中で「市民権」を得ていないように思う。衣食住が足りて、生活に余裕ができ、芸術に関心はあるという人は多いが、理解の度合いは低い。特に西洋彫刻の系統の作品は日本における歴史も浅いせいか、殆ど理解されていないし、生活の中にとけこんでいない。彫刻が我々の生活の必需品でないということもその一因であろうと思われる。しかし歴史が示すように原始の時代から彫刻は造られているし現在もそれが続いている。我々の生活に無関係なものでなく、きわめて密接なものであるということが推察できる。そこで今日は、なぜ生活に直接必要でないものが人間の生活の中に存在するかということ彫刻の美を理解するためにということ疑問点、問題点をとりあげ考えてみる。西洋彫刻と日本彫刻のちがい、彫刻の種類、彫刻と人形はどこがちがうか。具象彫刻と抽象彫刻、彫刻のつくり方、彫刻家とモデル、彫刻家になるには等々の多くのポイントが考えられるが、ここで全てをとりあげることにはできないので、上記の問題点の中から2～3点をとりあげ、話を進めたい。

「美」とは人間にだけ許された感覚である。全ての人に備わったものである。この感覚から出発しているのが、「美の表現」絵画、彫刻である。絵画は二次元の平面表現であり、彫刻は三次元の立体表現である。彫刻という言葉は一般的に立体表現を表すことが多いが正しくは「彫刻」と「彫塑」の二種類がある。「彫塑」とは文字通り、彫る、刻む、ことによって立体をつくることであり、「彫塑」とは、湿った土を意味する「塑」という語が示すように粘土でかたちをつくることである。この両者をまとめて「彫刻」とよんでいる。厳密にいうと木彫作品は「彫刻」であり、ブロンズ作品は「彫塑」である。現在の我々の

目にするのできる種類をあげてみると「木彫」「石彫」「テラコッタ」「乾漆」「プラスチック彫刻」「ブロンズ彫刻」「金属彫刻」「陶彫」「石膏彫刻」などがある。個々の解説については、いずれかの機会をいただくとして、ここでいえることは、「彫刻」を含め、人間は「創造力」を持ち、独特の文化を作りあげてきたということである。人間は創造力により先ず自分たちの生活に必要なもの、即ち実用的機能をもったものをつくりだした、そして更に精神的機能をもったもの、即ち心に直接うったえかける「美」を発見し、そのかたちをつくりだしたのである。これはとりも直さず、現代に生きる彫刻家にあたえられた使命であるということもできる。「美」を感じとり、みつけだし、具現化するものが彫刻家である。多くの人々のかかわりに「美」をつくりだしてゆく、これが「美」のためだけでなく、人々の生活の中にあっても異質な、ちくはぐなものでなくなり、とけこんでいった時は、はじめて彫刻の「美」が本当の意味での市民権を得たことになるのではなからうか。

◇情報抄録より

ロータリーは競争についてどう考えるか

「競争」という言葉には、抗争、闘争、対抗、出し抜く、といった意味合いがありますが、ロータリーにおいては、もっと温かい関係という意味が強いのです。ロータリーは、競争業者を同一（または同種）の製品を売り、同一の業務を遂行する職業人とみなします。競争業者関係の下における行動基準は、社会への奉仕を基本原則とし、同時にロータリアンの競争相手にも公平な機会を与えるものです。ロータリアンも競争業者も、その職種が全体として繁栄すれば、共に成功する、ということ認識するようロータリアンに求めているのです。

—ロータリアン必携第3巻、職業奉仕

◇次年度理事役員会議題

1. 1990～91年度行事予定の件
2. 新入会員候補者の件
3. その他



◇次回例会(6月26日)

友愛の日

◇次々回例会(7月3日)

新・旧会長挨拶

有終の美を

RI第276地区ガバナー 盛田和昭



私共の年度もあと二ヶ月を残すのみとなりました。このガバナスレターが皆様のもとに届く頃には、最大のイベントである地区大会も既に終わっていることでしょう。

このあと大きな行事としては、地区協議会と会長エレクトセミナーがありますがいずれも次年度の役員、委員長の集まりであり、各クラブに於ても同じ様に新しい人達が新しい年度に向けて始動されていると思います。従って今年度の役員・委員の方々にとっては最後の締め括りをして頂く時期です。今迄何度も申し上げた様に、ロータリーの最大の特徴はR.I.会長を始めすべての役員が一年で交替することです。それによってロータリーは常にフレッシュで常に革新的であることができるのです。

ロータリーのマニュアルには奉仕活動について、次年度の役員に負担を残さない様に極力その年度中に完結することが望ましいと書かれてあります。R.I.は新しい年度は新しい役員の方によって運営されることを望んでいるのです。私はこの素晴らしいシステムが地区に於いてもクラブでもスムーズに運用されなければならないと思います。私共を含めて過去の役員が新しい役員に対して意見を述べることは避けなければなりません。

私が公式訪問にお邪魔したクラブの中に本当に僅かなクラブではありますが、パストプレジデント会議とか長老会議というものがあるって重要事項については承認を必要とするので、執行部は大変やりにくいと言っておられ

ました。ロータリーに於いてはパストの役員は何等権限を持たないのです。これもロータリーの素晴らしい制度の一つです。その意味からも現役員の皆様は任期中に、手をつけられた諸活動をまとめ上げて頂きたいと思えます。その際問題となるのは継続事業です。

ロータリーの持つ最良のシステムが抱える唯一の問題点は、この継続事業を如何に取り扱うかです。つまり長期計画がたてにくいことに問題があります。R.I.が持つ大きなプロジェクトである財団奨学生制度とかポリオプラス、そして日本独特の米山奨学資金等はそれぞれ別の組織をもって運営されておりますから良いのですが、そうでないものはどうしても長期的な視野にたつての計画が非常に難しくなっています。この欠点を少しでもカバーする為に継続事業については特に詳しく次年度に申し送って頂きたいのです。但しその活動を拡大するのか縮小か又は廃止するかの判断は、あくまでも新執行部に委ねられることは申し上げる迄ありません。かくのごとく一年一年区切られた活動の成果の積み重ねがロータリーの歴史を形成しているわけです。

その輝かしいロータリーの歴史の一ページを飾るチャンスをお持ちになった役員・委員長の皆様は残された僅かな時間を有効にお使い頂いて、今年度の活動を完結して有終の美を飾られますことを切望致します。

あと一ふんばりです。

どうぞよろしくご願い申し上げます。